

お客様各位

2018年8月9日  
北興化学工業株式会社

## 変更登録のお知らせ

平素より弊社製品をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

此の度、2018年8月8日付で下記農薬の適用が変更登録されましたので、お知らせ致します。

### 農薬名

第23847号 *Dr. オリゼパディート粒剤*

### 適用変更の内容

- ・ 適用作物名「稲」を追加する。
- ・ 適用作物名「稲（箱育苗）」に適用病害虫「ツマグロヨコバイ」「ヒメトビウンカ」を追加する。

### 【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病	1kg/10a	移植時		側条施用
稲 (箱育苗)	いもち病 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ <u>ツマグロヨコバイ</u>	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	緑化期～ 移植当日	1回	育苗箱の苗の上 から均一に 散布する。
	<u>ヒメトビウンカ</u> ニカメイチュウ フタオビコヤガ		移植3日前～ 移植当日		
	イナゴ類		移植当日		

シアントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
1回	2回以内（移植時までの処理は1回以内）

効果・薬害に関する使用上の注意事項を下記のとおりとする。（下線部は変更部分）

(1) 育苗箱に処理する場合は、次の注意事項を守ること。

- ① 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としたのち、十分灌水すること。
- ② 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- ③ 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。

- ④ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
  - ⑤ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
  - ⑥ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- (2) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
- ① 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
  - ② 移植後は湛水状態（湛水深 3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- (3) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさけること。
- (4) 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (5) ヒメトビウンカに対しては残効性に注意すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項の内、水産動植物に係る事項を下記のとおりとする。（下線部は変更部分）。

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。  
また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 使用後は水管理に注意すること。
- (4) 器具及び容器の洗浄水は、河川水等に流さないこと。  
また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう、適切に処理すること。

以上

変更登録後の製品情報の詳細はこちら [（農薬製品・安全データシート（SDS）一覧）](#) からご参照下さい。